



あぜみち

www.ja-shinshinotsu.or.jp/

謹賀新年



今月号の主な内容

- ニュース&トピックス
 - 新年を迎えて
 - 午年生まれさん大集合
- 今月の技術情報
 - 栽培管理を見直し、次年度へ向けた計画を!
- インフォメーション
 - 年始の業務時間のお知らせ



【写真】

12年後の夢・自分

新篠津小学校に在校中の平成26年生まれ、6年生と5年生の若い年男、年女の皆さんです。

=関連記事24面

1

JA新しの

令和8年1月号
vol. 786



新年を迎えて

新篠津村農業協同組合

代表理事組合長

長屋光一

新年あけましておめでとございます。令和8年の新春を、皆様におかれましては健やかにお迎えになられましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、旧年中は当JAの事業運営に対して特段のご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、世界的な気候変動による自然災害はもはや通常になり、1月からは返り咲きとなるトランプ大統領の就任と相互関税の発動により国際貿易が混乱し、ウクライナや中東での戦争長期化が地政学リスクを高めました。国内では物価高や金融政策の転換に加え、初の女性総理が誕生し、さらに生成AIの急速な進展など、ある意味新時代の幕開けとなりました。こうした中、食料安全保障と地域農業の持続的発展の重要性が一層認識された年でありました。

そのような状況のなか本村農業を振り返ると、融雪は例年並みに進み春作業は順調に進む様に思われましたが、4月中旬から5月にかけて田畑が乾くことが無いほど断続的な雨に見舞われ、作業は大幅に遅れました。その後は、回復に向かいましたが干ばつと夏場の異常高温、そして秋には再び長雨となり、収穫作業や品質にも影響がみられ両極端な天候に悩まされる年となりました。

水稲につきましては、昨年よりも早い8月下旬からの収穫開始となりました。石狩管内の作況指数は「100」の「平年並み」となりましたが、カメムシや着色粒、倒伏後の降雨による発芽など品位格差が多く見られました。収穫量についても前年比で約1俵減という結果になりました。一方、米価は昨年が続ぎ過去最高水準まで上昇いたしました。全国的な豊作傾向や民間輸入米の増加など、需給緩和による価格の下落が懸念されるところであります。

秋小麦につきましては、全体的に干ばつの影響を受け、また、萎縮病の発生もあり細麦傾向となりましたが、施設調整により前年から0.5俵減の8.3俵に留めることが出来ました。

大豆に於いては、収穫期に長雨に見舞われ気を揉んだことが記憶に新しいところですが、高温や干ばつで心配していた品質低下も少なく収量も良好で、ユキホマレ一般では一俵あたりが9割を超える状況となりました。俵数については平均で5.1俵の結果であります。また、黒大豆の反収については5.4俵と豊作に恵まれ、価格も高値で推移し大豆については全体的に豊作年だった一方、小豆については高温の影響を受け、近年は栽培が厳しくなってきた状況であります。

青果類は露地・施設野菜ともに猛暑の影響を受けました。特に玉葱は全道的に見ても小玉傾向となるなど、他の露地野菜についても大きく減収となりました。

花卉についても同様に高温の影響を受けるところであります。総体的に出荷数量が減少しましたが、野菜・花卉ともに品目によっては単価に救われた結果となりました。

近年、高温基調になってからは各作物栽培に於いてより高度な栽培技術や暑熱対策が求められております。併せて人材不足に伴うスマート農業の普及やICTを活用した省力化栽培技術も進められております。JAといたしましては、安定した農業所得の確保に向けて基本技術を頭に置きながら本村の特徴である田畑輪換を駆使し、持続可能な農業を目指して参ります。また、当JAが取り組んでいる輸出事業に關しましては昨年の2月に台湾の湖口郷農會(フーコウノウカイ)と姉妹提携を結びました。これにより農産物の輸出入はもとより、日台の文化交流や互いの農業知識の共有等、更なる友好・信頼を築

きながら、他国も含め事業強化にむけて取り組んで参ります。

また令和8年度は、農協中期経営計画並びに第11次農業振興計画の開始年であり、前述の激しい気候変動や目まぐるしく変化する社会情勢を踏まえ6年先の状況を見据えることは難しい状況であります。次世代に繋げてゆく為にも計画を樹立して参ります。

農政活動につきましては、令和9年度からの水田政策の見直しを控え、燃油や資材の高騰など現場の実情を訴えながら、農業予算の確保に向けて働きかけて参ります。政府与党は、昨年からの農業構造転換集中対策期間とし、既存の農業予算とは別枠5年間で2.5兆円の財源を求める決議を行っております。この農業構造転換集中対策期間中は、農業の持続可能な発展と食料安全保障の強化を目指す重要な施策でありますので、JAとしても注視して参ります。

米の高価格が取り沙汰される中で、我々は生産の目安をしっかりと守り協力体制を取りながら、需要に応じた生産を継続することが消費者の食の安定と我々生産者の安定に繋がると確信しております。

農業の生産性向上と地域活性化を図ると共に、持続可能な農業の為に組合員の皆様と共に、又、各関係機関とも協力体制を取りながら歩みを進めて参ります。

皆様におかれましては、不透明感が増している昨今だからこそ、今後とも相互扶助と共存同業の精神を忘れることなく、JA事業へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、昨年は第27回参議院通常選挙が行われ、皆様の温かいご支援により、東野ひでき氏を参議院議員として送り出すことが出来、また併せて、岩本つよひと参議院議員についても再び国政の場に送ることが出来ました。あらためて厚く御礼申し上げます。

本年が皆様にとりまして、笑顔あふれる一年となり、豊かな実りを得られますようお願いを込めて、新年のご挨拶といたします。

謹賀新年

新篠津村農業協同組合

会長 理事 早川 代表理事組合長 市川 専務 理事 日下 信用担当常務理事 庄司 職務代理理事 中村 理事 清水 若松 木野 林島 盛田 福松 若松 林島 盛田 代表 監事 三佳 常勤 監事 未知 代表 監事 元達 代表 監事 宏彦 代表 監事 光一 代表 監事 俊一 代表 監事 史一 代表 監事 仁一 代表 監事 英一 代表 監事 行一 代表 監事 信一 代表 監事 好一 代表 監事 秀一 代表 監事 達一 代表 監事 元一 代表 監事 宏一 代表 監事 彦一 代表 監事 光一 代表 監事 俊一 代表 監事 史一

新篠津村生産振興会

会長 理事 三長 副会長 北川 理事 敬一 代表 監事 憲一 代表 監事 智一 代表 監事 太一 代表 監事 貴一

新篠津村野菜生産組合

会長 理事 高橋 副会長 高橋 理事 興一 代表 監事 一真 代表 監事 弘一 代表 監事 真一

新篠津村花卉生産組合

会長 理事 窪田 副会長 窪田 理事 裕倫 代表 監事 隆浩 代表 監事 史浩 代表 監事 聖浩

新篠津村農協青年部

部長 宮田 副部長 泉藤 部長 拓也 副部長 泰将 部長 翔平 副部長 翔平

JA新しのつ女性部

部長 宮田 副部長 泉藤 部長 拓也 副部長 泰将 部長 翔平 副部長 翔平



令和8年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長

樽井 功

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

この様な状況の中、昨年7月に実施された参議院議員選挙において、組合員・JA役職員をはじめとする多くの皆様の「ご支援をいただき、全国農

業者農政運動組織連盟が推薦した東野ひでき氏を国政に送り出すことができました。

この一步を重要な礎とし、改正基本法により基本理念として位置付けられた、国民一人一人の食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの実現、持続可能な北海道農業の確立に向けて、組合員・JAの声を国政に届ける活動を継続してまいります。

JAグループ北海道は、今後とも組合員との対話活動を一層強化し、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に全力で取り組んでまいります。

結びになりますが、本年は午年です。午年はエネルギーと行動力が高まり、挑戦や成長の機会が得られる年とされています。この謂われにあやかり、本年が北海道農業の更なる飛躍の年となることと、皆様の「ご多幸とご健勝を」ご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



令和8年の年頭にあたり

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

支所長

辻 敏昭

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様には、新たな気持ちで輝かしい初春をお迎えのことと存じます。また、日頃より普及センターの活動全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

令和7年の石狩北部地域の気象と農業生産を振り返りますと、融雪期は平年より7日程度遅く、4月の降水量は平年に比べ多くなりました。そのため、耕起作業はやや遅れ、一部作物で影響が見られました。5月に入り遅れ気味であった農作業も徐々に遅れを取り戻しました。6月中旬～7月下旬は記録的な高温と少雨傾向となり、8月以降も気温はやや高めに推移し、各作物の生育が早まることにも病害虫の発生が一部作物で目立った年でした。

このような気象経過により、水稲は、幼穂形成期から生育が早まり、成熟期は9日早くまりましたが、概ね平年並の収量を確保しました。大豆は、種作業がやや遅れたものの、着莢数を確保し収量は概ね良好でした。一方、秋まき小麦は登熟期間の高温少雨の影響で細麦傾向となり平年を下回る収量・品質となりました。野菜・花きの一部品目においては、高温による品質・収量の低下や出荷の前進など、販売面にも影響をあたえました。

こうした変動の大きい気象と生育経過ではありましたが、皆様のきめ細やかな栽培管理で影響を最小限にとどめ

たことに対し、改めて敬意を表するところであります。

農業情勢に目を向けますと、昨年は「食料・農業・農村基本計画」が4月に閣議決定、長引く資材高騰、一昨年から続く米の価格高騰など、農家経済への影響も大きい年でもありました。北海道では令和8年度からの「第7期北海道農業・農村振興推進計画」策定が進んでおり、普及センターも5力年計画を樹立している最中です。その中で「日本の食を力強く支える豊かな農業・農村」を10年後の目指す姿として取組を進める状況にあり、持続可能で潤いのある農業・農村を確立する事が必要不可欠といえます。

普及センターとしても国内外の情勢を踏まえ、気象変動に対応する栽培管理と基幹作物の高位平準化、水稲乾田直播栽培等の省力化技術の定着を図り、さらに「農業塾」や「新米塾」の担い手学習会充実など、新篠津村の優位性や潜在力を最大限に発揮するため、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり、生産振興と地域振興を支援してまいります。皆様の一層のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、豊穡の年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

2014年 午年を振り返る

平成26年

2014年



3月号



有機農業の多くの可能性を探る

2月13日、札幌市の道庁赤レンガ庁舎で北海道有機農業推進会議が開催され、生産者や関係機関から約70名が参加。同会議で、村グリーン農産物生産協議会の佐々木伸会長が基調講演の講師を務めた。安全・安心な農畜産物を求める消費者ニーズへの対応や環境と調和した持続可能な農業スタイルへの可能性を探ると共に、各関係機関が連携する事により、有機農業が持つ様々な課題解決に繋げることを目的に開催した。

2014年



4月号



日本農業のトップランナーとして

中原農事組合の大塚裕樹さん・早苗さん夫妻が大賞を受賞した「第43回日本農業賞」の表彰式が3月8日、東京都渋谷区のNHKホールで開催され、多くの関係者や一般観覧者が会場を訪れた。日本農業賞はNHKとJA全中、都道府県中央会が主催。日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改革に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者と営農集団を表彰するものである。

2014年



5月号



大消費地で新しのつをPR

新篠津村農工商連携協議会(東出輝一会長)では4月2日から7日の6日間に亘り、ススキノフィア地下2階「ラフィアマルシェコート」に「しんしのつマルシェ」を出店。新しのつ産農産物や加工品など新篠津村の魅力をPRした。この「ラフィアマルシェコート」は国内外の観光客に対し北海道の魅力を広く伝えようと、4月2日にリニューアルオープン。道内産の食品や加工品を多く販売していた。

2014年



6月号



多くの来場者に期待高まる

新篠津村農工商連携協議会(東出輝一会長)では行楽シーズンを迎えた5月1日、道の駅「しんしのつ温泉たつぷの湯」に隣接する「しんしのつ産直市場」をリニューアルオープン。新しのつ産農産物や加工品を多く扱うことで、村の知名度向上と販売拡大を効果的に進めることが目的。5月3日にはイベントを実施。訪れた方に、新しのつ産トマトを使用したトマト鍋や温かいコーンスープを振る舞うなど大いに賑わっていた。

2014年



9月号



昨年に引き続きTPP交渉に対する中央要請活動実施

新篠津村関係8団体は7月下旬、昨年に引き続き、TPP交渉に関する国会決議遵守について中央要請活動を実施した。今回の中央要請活動は昨年に引き続き3回目。新篠津村東出村長を団長に村議会、農業委員会、JA、村商工会、新篠津土地改良区、篠津中央土地改良区、南美原土地改良区の各代表がTPP協定に対しての国会決議の遵守を守るよう関係省庁と北海道選出の衆・参国會議員28名に提出した。

2014年



10月号



大地の恵みを食卓へ届ける

JAでは9月6日、7日の両日「サッポロさとらんど交流館」で開催された「さっぽろ圏大地の恵みフェア・さとらんど収穫祭」に新鮮な新しのつ産野菜などを届けるため出店。会場を訪れた消費者に収穫の秋をPRした。本収穫祭は、石狩管内のJAと市町村等で構成された「さっぽろ圏地産地消推進委員会」が主催した。

2014年 平成26年

12年前の平成26年は、17年ぶりとなる消費税増や経済政策による物価上昇等で生活に大きな影響を及ぼした。農業・農協を取り巻く環境では、TPP交渉で日本側に譲歩を求めるなど予断を許さない状況下、5月には政府の規制改革会議による「農業・農協改革」問題等で不安が広がった。本村では大雪の影響も少なく、順調に農作業を進めたがしかし、低温や記録的少雨等変動の激しい気象条件の中、生産者の的確な栽培管理により無事豊稔の秋を迎えた。水稻は概ね順調に生育、管内作況指数は「107」の「良」で低タンパクな高品質米が生産出来たが、余剰在庫等の影響から米価は下落した。

午年生まれさん大集合



(左から)
市川 英俊さん (昭和41年2月11日)
日下部 行夫さん (昭和41年1月12日)

日下部：健康な1年でありますように
市川：



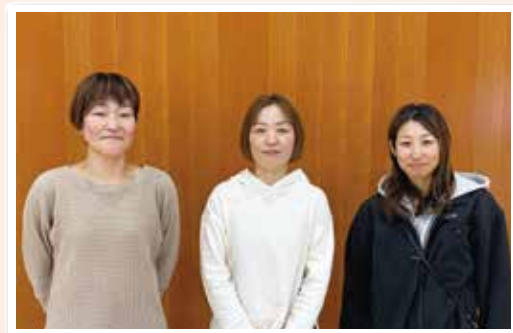
盛田 佳道さん (昭和53年8月19日)

盛田：健康第一



泉 拓也さん (平成2年3月15日)

泉：健康で1年過ごせるように



(左から)
植高 橋島 祥聖由 華さん (平成2年1月26日)
江子さん (昭和53年12月15日)
堤高 橋島 植さん (昭和53年4月13日)

堤：健康に気を付けて充実した1年にしたいです
高橋：健康に気を付けて元気に毎日を過ごす！
植島：たくさん笑える年にしたいです



(左から)
平 穂 華さん (平成14年12月22日)
土居 孝行さん (昭和53年3月13日)

土居：健康第一、甘いものに気を付ける
平：飲みすぎに注意



(左から)
米 塚 直樹さん (平成2年6月12日)
遠山 貴宏さん (昭和53年2月9日)

遠山：遊びすぎない
米塚：仕事を頑張る



有益な功績が評価され藤永氏緑白綬有功章受章

令和7年度農事功績表彰

JAでは11月25日、拓新農事組合の藤永康氏が公益社団法人大日本農会の本年度農事功績表彰で農事功労者部門の緑白綬有功章を受章したことを受け、長屋光一代代表理事組合長に報告するため来組した。11月12日に東京都内で表彰式が行われ出席していた。

藤永氏は「北海道指導農業者としてJAや関係機関に支えて頂き大変お世話になりました。長屋組合長は「指導農業者として村の先頭に立ち、農業の発展に貢献して頂いて感謝します」と讃えた。

農事功績者表彰とは、農業改良の奨励又は実行上功績顕著な者、農業上の有益な発見又は研究を行い功績顕著な人物に対し公益社団法人大日本農会が表彰するものである。明治27年（1894）以来、総裁（現総裁・秋篠宮皇嗣殿下）の御名をもって表彰を行い、賞章及び賞状を授与している。

藤永氏のこれまでの功績としては、平成27年に新篠津村指導農業者・農業士会会長及び石狩管内指導農業者・農業士会会長、平成29年には北海道指導農業者・農業士会副会長、平成31年から令和3年までの間、北海道指導農業者・農業士会会長を歴任し、令和6年には北海道産業貢献賞（農業関係功労賞）を受賞。地域農業のみならず全道農業組織の役員として運営や担い手育成指導に尽力。北海道農業の振興に多大な貢献をされている。



賞状を手に報告する藤永氏(右)と長屋組合長

母校後輩達に講話で一步踏み出す勇気と大事さ伝える

新篠津中学校「総合的な学習の時間」キャリア講話

JAでは12月3日、新篠津中学校において、長屋光一代代表理事組合長が「総合的な学習の時間」によるキャリア学習の総括として講話を実施した。この取組は、中学2年生を対象とするもので、会場となる同校体育館に18名が集まり、真剣な眼差しで長屋組合長の話を聞いていた。同校は組合長も若き日を過ごした母校でもある。

講話が始まり、自己紹介を済ませると長屋組合長は、生徒一人ひとりの足元へ向かい、名刺を渡した。恐らくは、人生初であろう名刺の受領に生徒達は、丁寧な振る舞いで対応していた。

講話の中で長屋組合長は、ここは農業の村であることや水稲作付け面積、農家戸数の話から始まり、2050年には日本国内の農業者数が全体で36万人にまで減少してしまうと危惧した。米に関する話の中では、近年の情景を解りやすく説明。コロナ禍での価格低迷と資源の高騰、地震や台風といった気候変動等が及ぼす市場原理を丁寧に伝えていった。また、長屋組合長のルーツにも触れ、先祖が本村へ入植した昭和35年当時の苦悩として、泥炭地から土地を整備してきたことを語った。現在では、約2,600haから出来る米をライスファクトリーで調製しており、村の米の評価は高く、海外にも輸出していると話した。

農業以外の話に要した時間が多く、今の時代の子ども達に向けて、組合長自身の生い立ちに触れ、家族や仲間の大事さや、彼等のこれからの人生で訪れる困難との向き合い方として「分からないままにせず、そこで努力しなければ大人になって苦しむことになってしまふ。やりたくないことから逃げないで欲しい。作物も厳しい環境下でこそ品質も良く、収量も高い。人も同じで、色んな試練の先で心を磨くことが出来る。自分が傷つく様な言葉に対し、感謝出来るなら人として成長できる。一步踏み出す勇気があればチャンスは必ずやってくる」と話した。

講話が終わり、生徒代表が「村の知らないことを教えて頂きありがとうございます」とお礼の言葉を伝えた。



一步を踏み出す大事さを話す長屋組合長

混沌とする時代の中で持続可能な農業の在り方探る

JA役職員と青年部との懇談会

JA青年部では11月28日、JA2階大会議室で当JA役職員との懇談会を開催。役職員27名と青年部員61名が出席し、農業所得の向上や地域農業の未来と更なる発展に向け、意見交換を行った。

開会にあたり、当部の宮田翔平部長は「役職員と話せる良い機会なので、是非とも皆さん積極的な意見をお願いします。この意見交換の場でJAへの理解を深め、来年度の営農に繋げられる様に有意義な懇談会にしましょう」と挨拶した。

当JAの長屋光一代代表理事組合長が挨拶で「今年の石狩管内の作況単収指数は「100」の平年並みとなった。先だつて行われた「ゆめびりかコンテスト」では次点となり悔しい結果だった。本村の水稲作付面積は約2,600haあるが、その面積を皆が「生産の目安」を守って作付けてくれてることを有難く思う。また、質の良い農産物を作ることにより、価格が安定するというのがその先で自分のためになる。今日は有意義な懇談会にしたい」と話した。

情報提供として、当JA農産部生産資材課の宗像政美主任技師より「JA新しのつの水稲直播」と「2025『そらきり』の品質課題と対応(案)」の2題が報告された。

その後に行われた意見交換は、各支部毎に4つの班に分け、それぞれ別室で役職員が対応した。青年部からは、米価の適正価格や施設者朽化に伴う維持管理、JAへの出荷体制のほか、青年部に期待する事等多くの質問や意見、要望が出され、役職員は熱心な問いに対し真摯に答えていた。



意見交換の様子

希望の宝達へ地元の優しいお米で大きく育て

JA青年部食育活動「YES! clean米」プレゼント



お米を手に喜ぶ新篠津小学校の1年生

JA青年部では12月1日、新篠津小学校の1年生に新米「新しいつ米」(YES! clean米)「ななつぼし」(450g)を12名の児童へプレゼントした。

この取組みは、食育の一環として行われている活動で、安全・安心な地産産物を学校給食に多く取り入れてもらい、村の基幹産業である農業への理解を深めてもらうと共に、地産地消を推進することを目的としている。平成24年に「YES! clean米」栽培に取り組み当部員から「地元の子ども達に自分達が作っているお米を食べてもらいたい」との提案から始まり、本年度も実施した。

この日、出席した当青年部の宮田翔平部長は「環境に優しいお米を作っています。最近はお米が高いと言われていますが、食べる人のことを思つて大事に作つたので、残さず食べて欲しいです」と1年生に向けて話した。その後、当部員達から児童一人ひとりにお米を手渡し、児童は元氣いっぱい大きな声で「ありがとうございます。ヤッター!」と喜びながら飛び跳ねていた。児童からは「唐揚げと食べたい。おにぎりにしたい。たまごかけご飯で食べたい」などの声が聞こえた。

家事や農作業で酷使した身体を根本改善で原因究明

JA女性部研修会



施術する柔道整復師の高田氏 (右から3人目)

JA女性部では11月26日、JA2階大会議室で同部の研修会を開催した。当日は部員65名が参加した。開会にあたりJA女性部綱領を朗唱した後、市川真紀女性部長から「11月に入り沖繩本島への有意義な宿泊視察研修旅行やJA北海道女性大会・北海道家の光大会での農業ガールズコレクションin北海道では新篠津産特産品等のPRをするなど活動してきました」と挨拶。その後、当JAの長屋光一代理事事組合長から「研修や旅行は各部員それぞれの思いがひとつになる大事なものです。今日は一年の疲れを取って頂きたい」との来賓挨拶があった。

同研修会の講師には、札幌市にある菅原整骨院柔道整復師の高田一仁氏を招いて「疲れた体のほぐし方」と題して講習した。同院では、対処療法的な治療では痛みが再発してしまうことから、徹底的な検査を行い、根本原因を突き止めて施術することを理念としている。講師である高田氏の得意な施術には、オイルマッサージ(足裏・手掌)とスポーツパフォーマンスの向上を促す等がある。

研修内容はラジオ体操に始まり、痛みの仕組み説明と施術体験、エリプセンスと呼ばれる縦横長さ約10cmの楕円状ゴム製ボールの説明とそれを使用したトレーニング方法を解説した。質疑応答の場面では、出席した部員から積極的な質問が多数寄せられていた。

今回の研修会では、高田氏からのお願いとして3つのルールがあると話し「1つ持ち帰る・あくびを我慢しない・大げさに相槌をする」などユニークでリラックスした時間を過ごしていた。

農作業事故ゼロに向けて地域全体で共有図る

令和7年度石狩地区JA女性部研修会



積極的に質問する姿が多かった研修会の様子

JA女性部では12月11日、北農ビル(札幌市中央区)にて開催された令和7年度石狩地区JA女性部研修会に部員11名が参加した。

研修会では、JA石狩地区女性協議会の倉田八重子会長から開会の挨拶。午前の研修では「農作業安全は一丁目一番地!」自分事として考え、家族や仲間を守る」と題し、ホクレン函館支所営農支援室の菅原貴夫技師の講演を聞いた。農作業事故における死亡事故発生率(死亡リスク)は、建設業や交通事故よりも高く、全産業の約9倍にも及ぶ。農作業事故の事例を具体的に紹介し、事故によって怪我をした実際の写真もスライドで映していった。刃物でえぐられた皮膚や、切断された手や足、指のモザイク無しのカラー映像が映され、大変ショックで刺激が強い映像だが、これらを見ることにより農作業事故の怖さをより痛感することが出てきた様子だった。

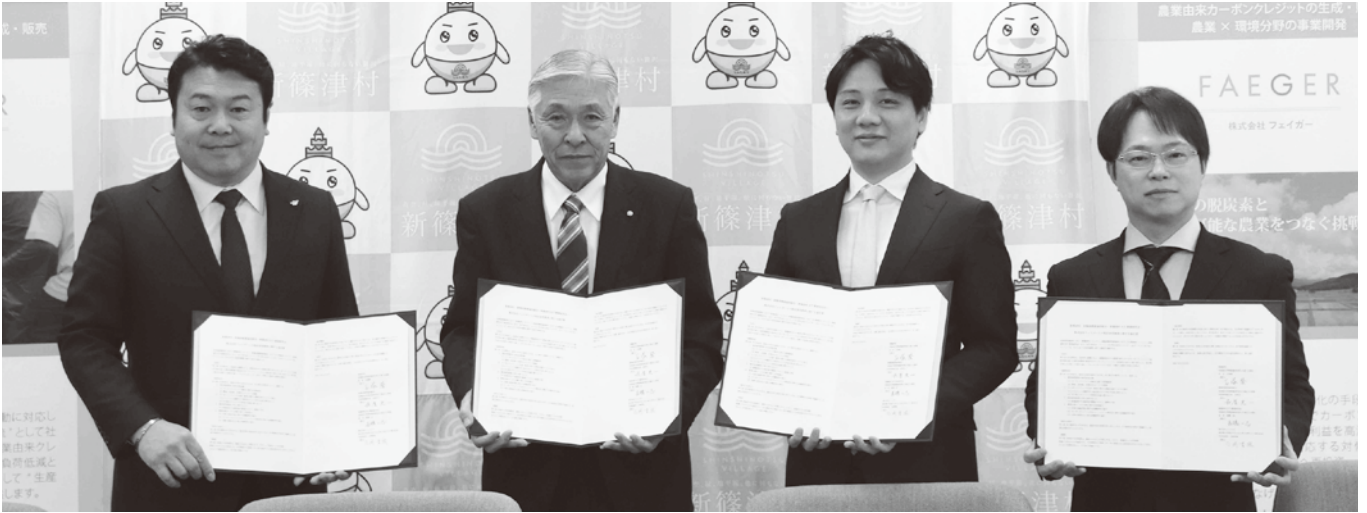
午後からは「ホクレン札幌支所の取り組み」と題し、米麦農産課、生産資材課、営農支援室での取り組みについて意見交換。中でもプロッコリーの長期貯蔵試験の取り組みでは、殺菌剤に対する害の有無や栄養価を問うなど積極的に質問する姿が多く見受けられた。ホクレン生活部地域生活課の取り組みでは、作業衣料品の商品説明会が行われ、講師である株式会社新和の大村周平副社長から翌年春の新商品が紹介され、出席者はサンプルを手に生地感等を確認していた。

閉会の挨拶で当JA女性部の市川真紀部長は「農作業安全の話は、青年部や女性部、地域全体で共有したいと思いましたが、お気に入りの農作業服を着ると気持ちも頑張ろうと上がる」と話した。

農作業事故ゼロに向けて皆がより意識する機会となったようだ。

環境価値創出で持続的農業体系構築

脱炭素型農業包括的連携協定調印式



包括連携協定調印式で協定書を手にする4者（左から長屋組合長、石塚村長、石崎CEO、高橋会長）

JAは12月8日、新篠津村役場2階会議室において、村内での農業分野におけるカーボンクレジットの創出支援を通じた脱炭素型農業の推進及びカーボンクレジットによる収益の拡大に取り組むことと、その取り組みを全国へ発信することを通じ「ゼロカーボンシティ宣言」で掲げる施策の実現を目指すため、新篠津村、JA新しのつ、新篠津村ICT農業研究会、株式会社フエイガーの4者による包括的連携に関する協定を締結した。

協定書調印式には、新篠津村の石塚隆村長、当JAの長屋光一代表理事組合長、新篠津村ICT農業研究会の高橋一志会長、株式会社フエイガーの石崎貴紘CEOが出席しそれぞれ協定書に署名。この協定で4者が事業連携することにより、脱炭素型農業の普及啓発活動やカーボンクレジットの生成及び販売に関する農家支援サービスの協力、脱炭素型農業のPR及び農業支援サービスの全般に関する技術協力が強化される。調印式で長屋組合長は「持続可能な農業と、豊かな環境に繋がらる」と話し、高橋会長は「この取り組みのトックプランナーでありたい」と熱意を見せていた。同研究会が創出したカーボンクレジット（環境価値）により対価を先払いで得られ、得られた対価で同研究会は気象センサー等の耐候性ソリューションの導入や水稻の生産性向上の検討が可能となる。また、同研究会が創出したカーボンクレジットを活用して、地域のイベントや地元の建設・土木会社等が環境価値の向上を検討することで地域貢献へと繋がる。その結果、環境価値市場の創造と持続的な農業体系構築が可能となり、消費者へ環境負荷の少ない農産物を安定供給することが出来る。

現在までの新篠津村ICT農業研究会と株式会社フエイガーとの取り組みは、令和6年度に77件の農家（1,020ha）と契約し、Jクレッジットを活用した水田中干し延長で温室効果ガスの排出削減量6,553tものカーボンクレジットの生成を実現した。今年度現時点での同社と契約する農家数は102件となっている。

先駆けるスマート農業実践事例で時代の波に乗る

新篠津村ICT農業研究会とJAごしよつがる担い手法人会との意見交換会



新篠津村ICT農業研究会の事例を紹介する高橋会長（右）

新篠津村ICT農業研究会は12月10日、JA1階会議室において、JAごしよつがる担い手法人会との意見交換を実施した。意見交換会に先立ち、JAごしよつがる野菜振興課の加藤麗樹係長から今回の受け入れに対しお礼の挨拶があった。出席者には、同担い手法人会の会員のほか全農あおもり、JAごしよつがるの職員ら6名が来組。村ICT農業研究会の高橋一志会長は「先日の地震は大変でしたが、無事にお顔を見られて安心しました。短い時間ですがICT事例を紹介したいと思えます」と話した。その後、JA事務局から本村の概要説明、村ICT農業研究会からはスマート農業の取り組みやICT導入の経緯等を伝えた。事例紹介では、高橋会長からスマート農業の取り組みとして【自動操舵活用事例】【人工衛星から診る生育診断「天晴れ」活用事例】【Jクレッジットへの取り組み】の3点について紹介した。質疑応答では、ICT導入の経緯やJクレッジットなどについて熱心な質問が数多く寄せられた。デジタルとJクレッジットを活用し、水田中干し延長に取り組む生産者86戸、圃場面積約1,163haから約8,459tの温室効果ガスの排出削減を可能にした取り組みは前進を続け、今後毎日国内の各地域から注目の的となるであろう。進化する新時代農業へ対応すべくスタイルを形成し、今年もまた新たな常識を創造して行く。

進化する新時代農業のトプランナーで走り続けるために

新篠津村 ICT 農業研究会 Jクレジット・ファーム研修会



トプランナーでありたいと熱意を込めて話す高橋会長(左)

新篠津村 ICT 農業研究会は12月8日、JA2階大会議室において、Jクレジットに係る今期の振り返りと来期への取り組み及びファームの活用に関する研修会を開催した。当日は、同一 ICT 農業研究会がサポート協力している株式会社フエイガーの石崎貴紘 CEO 並びに同社の松谷達馬農業事業開発マネージャーと株式会社 farmo 営業部統括の吉田健治 CS デイレクターが来組した。研修会に出席した生産者は55名にも及んだ。

研修会の中で株式会社フエイガーの松谷氏は会社概要について改めて説明した。同社は、持続可能な農業（環境配慮・収益性・生産性を実現する農業）の実現を目指し、カーボンプレジット制度を活用した農業の気候変動対策の拡大を行っている。水稲栽培における中干し期間延長の実績としては、令和7年度で全国の約1,776戸の生産者を取り組み、申請中である生成したクレジットは、圃場面積で36,419ha、そこから25,253tの温室効果ガス排出削減を実現している。それらの内、同一 ICT 農業研究会の申請状況は生産者が86戸、圃場面積は1,633.4ha、予定排出削減量は8,459.3tとなっている。

来期に向けての話の中では、新サービスとして株式会社 farmo と連携して、水位センサーを導入し、圃場のデータ収集の簡略化（日減水深測定・中干し開始から終了の写真撮影）も可能となる。その他の新サービスでは、申請システムのアプリ化、入会申込み方法の選択肢や動画コンテンツの拡充が挙げられた。その後、水位センサーに係る詳細について株式会社 farmo の吉田氏から設置方法等について説明があり、携帯スマホを使用して遠隔での水管理が可能となることや自動給水装置（開水路・パイプライン）、水位計測機器（河川・ため池・水路）、水門ゲートの自動化、ハウス環境のモニタリング等が可能となる同社商品についての紹介があった。

Jクレジットは、補助金や交付金とは違い企業への販売が必須であり、取引価格が定まっている。このため申請・販売サポートにどの企業を選択するのかが生産者の収入額に差が生じてくる。

なお、この日の研修会前には新篠津村役場にて、新篠津村、JA新しのつ、同一 ICT 農業研究会、株式会社フエイガーの4者による「脱炭素型農業包括的連携協定」を締結し、「ゼロカーボンシティ宣言」で掲げる施策の実現を目指すための一歩を前進させた。また、センサー導入に伴う通信基地局の設置については、本協定の一環として株式会社フエイガーが無償にて整備する。これにより水位センサーの他に気象や土壌センサーなど様々な用途で使用可能となる。

最高のクオリティオブライブ享受するため安全対策にも入念

グリーンツーリズムしんしのつ受入農家冬期研修会



AEDを使用して救命処置訓練する会員ら

「グリーンツーリズムしんしのつ」では12月5日、JA2階大会議室で受入農家による冬期研修会を開催。会員11名及び事務局2名が出席。次年度へ向けより安心・安全な農業体験事業を実施するための取り組みとして実施した。

今年度の研修は、石狩北部地区消防事務組合新篠津消防署職員指導の下、応急手当と救命処置の基礎知識を学んだ。農業体験で訪れる子ども達がファームステイ先での突然のけがや病気に備え、救急隊に引き継ぐまでの流れを体験した。周囲の安全確認から始まり、反応の有無、無い場合には呼吸を確認。訓練では、胸骨圧迫を30回継続し、人工呼吸2回の組み合わせで行われた。胸骨圧迫は胸が単三電池の長さ約5cm沈み込むようにしっかりと圧迫するため相当な体力を要する。その後、AEDを実際に装着するなど本格的な訓練の様子だった。

未来を担う若人に北海道農業の魅力を発信し、豊かな自然環境の下で素晴らしい思い出を創り渡すため、安心と安全でなければならぬという会員達の責務を強く感じた。毎回「別れの集い」で元気に手を振って見送れるように。

今年度の食農教育事業は、受け入れ実績は6校で107名となっている。

固定概念にとられない組織づくりで活発化に繋ぐ

第74回全道JA青年部大会

翌日には、一動画で発信！農の魅力「コンテンツ」も放映された。基調講演では、合同会社CGOのトム代表が「総長バブリー（竹野理香子）氏によるトータルスタイル×農業」をテーマにした講演が行われた。ギャルの文化の歴史や、同社の取り組みが紹介された。ギャルの文化の歴史や、同社の取り組みが紹介された。ギャルの文化の歴史や、同社の取り組みが紹介された。

JA青年部では12月4日から5日にかけて、札幌市中央区で開催された。74回全道JA青年部大会に出席した。当日は、全道各地より800名を超えるJA青年部員が参加した。大会は、JAの歴史や、同社の取り組みが紹介された。ギャルの文化の歴史や、同社の取り組みが紹介された。ギャルの文化の歴史や、同社の取り組みが紹介された。



盛大に開催された全道JA青年部大会

令和7年度税制改正に伴い変更点詳細に解説

新篠津村農業所得事務連絡協議会税務研修会

この他では、軽油引取税は消費税の対象外である。基礎控除等の見直しでは、令和7年度税制改正により所得税の「基礎控除」並びに「給与所得控除」の見直しや「特定親族特別控除」の創設について解説し、原則令和7年12月1日に施行、令和7年分以後の所得税について適用となるため、年末調整等令和7年12月以後の源泉徴収事務に変更が生じると話した。

新篠津村農業所得事務連絡協議会では12月10日、JA2階大会議室において、税務研修会を開催した。この日は生産者75名が出席。研修会では、講師に税理士法人菊池会計事務所の高取輝彦税理士を迎えて進められた。研修の内容としては「消費税本則課税の記帳における留意点」「基礎控除等の見直し」「その他留意事項」の3題について説明を受けた。



税務研修会の様子

地球温暖化で変化する気象現象に対応すべく議論白熱

新篠津村関係機関と村指導農業者並びに農業士会との意見交換会

からは、各品目別（水稲・麦・大豆・花卉・各種野菜）に今年の反省点と次年度への新たな取り組み等が報告された。全体を通して、各品目が共通して課題に挙げられたのは、高温対策と夏と秋の長雨。これらの対応に悩まされたと話していた。持続可能な農業の発展に向けて活発な議論が最後まで繰り返されていた。

新篠津村農業振興センターでは12月12日、JA2階大会議室にて、村関係機関と村指導農業者並びに農業士会との意見交換会を実施。会員並びに関係者含む24名が参加した。開会にあたり同センター顧問である新篠津村の石塚隆村長が「今年度は6、7月の雨で収量減となったが価格で補えた。来年以降の価格がどうなるかだが、スマート農業を含め新篠津村農業の発展に期待したい」と挨拶。続いて、会長である当JA長屋光一代表理事組合長が「雨に影響を受けた一年となった中で、大豆は9割が1等比率で好調だった。先だって締結した脱炭素型農業包括的連携協定により豊かな環境を次世代に寄与することを期待したい。新たな時代が到来した」と話した。



品目別に熱心に意見交換をする様子

製粉会社大手秋小麦生産者へ品質向上と意識醸成に期待し講演

新篠津村生産振興会令和7年度秋小麦冬期研修会



講師を務めた株式会社ニッポン製粉業務部の目崎氏（奥左から3人目）

JAでは12月10日、JA2階大会議室で新篠津村生産振興会による令和7年度秋小麦冬期研修会を実施した。当日は生産者と関係者らで約50名が出席した。

同振興会の長山智貴会長からの挨拶の後、2題について研修会を実施した。1題目の研修には、株式会社ニッポン製粉事業本部製粉業務部の目崎萌香氏を講師に迎え「北海道産小麦の重要性」を見て食べて感じる「小麦品質」と題し進められた。同社設立は1896年12月。民間で日本初の近代的機械式製粉会社として始まり、令和3年1月から社名を「日本製粉」から「株式会社ニッポン」へと変更し、事業の多角化を進め、製粉事業だけでなく、総合食品企業として事業拡大を展開している。同社は北海道に起源がある会社として、星印を付与した製品も取り扱っている。現在では、操業開始から100年を迎える小樽工場で製粉事業を継続し、道内での小麦粉製造量はトップ。北海道産小麦は製粉業界にとって欠かせない存在で、国内地域別生産数量割合では、北海道は全体の66%を占める。それは日本の小麦消費の約12%にあたる。日本における用途別の小麦使用割合は、パン（中華麵）日本麵、菓子（菓子）の順となっている。一方で、国内産小麦の使用割合は日本麵用がメインでパンや中華麵用は少ない。小麦粉は小麦の胚乳を粉にしたもので、外皮が胚乳より硬く剥がれにくいいため外皮ごと砕いてから胚乳を取り出す。また、小麦粉は主に水分、たんぱく質、灰分の規格があり、各工場では製造した小麦粉がその規格に入るよう原料配合を調整して製造している。小麦のたんぱく質は、小麦粉に水を加えて捏ねることにより「グルテン」を形成し、それが骨格形成の役割と食品品質に大きく影響を与える。研修では、実際にうどんを食べ比べ、たんぱく質がどの程度食感に影響しているのかを検証。たんぱく質（グルテン）の量が多いと食感は硬く、なめらかさに欠ける。逆にたんぱく質が少なければ食感が過度に軟らかく煮崩れが多くなる。一般的には、小麦原料で10から11%が望ましいとされており、製麺メーカーからは食感や作業性、色味の変化に関する問い合わせが多いと言う。機械製造の会社が多く、誰が作っても同じ品質の麺が作れるような安定した小麦粉が求められていると話した。灰分はリンやマグネシウム等のミネラル分のこと。栄養価は高いが、色が暗く食品がくすみ、食味が良くないため、菓子や麺には好まれない。小麦粒が大きいと胚乳部分（中心）が多いため、灰分が低い傾向にあり、一般的に1.50%以下が望ましいとされる。小麦粉を使用する食品の食感や外観は、小麦粉の品質により左右され、その品質は製粉技術にもよるが、原料小麦の品質も重要な影響を与えている要素だと目崎氏は話す。今

後も秋小麦を生産する上で意識して欲しいこととして、小麦の品質は食品の品質に直結すると力説した。原材料を作る生産者と完成した料理等を仕上げるための材料を作る製粉会社が共に品質と意識を醸成させることによりビルドアップすることで消費者に喜ばれると同時に、その先で味わえる生産者としての充実感と誇りは、何にも代えがたいものである。思考の癖を解き、柔軟な吸収力があればもうワンランク上の麦に近付けるイメージを与えた。

2題目の研修には、石狩農業改良普及センター石狩北部支所の馬着隆幸専門主任を講師に「令和7年産秋小麦の結果と次年度に向けた課題」と題し、本年産の減収要因と多収要因について「きたほなみR」の試作結果と縮萎縮病対策及び多収農家の生育経過と多収のポイントや「秋小麦通信簿」の見方について解説した。

稲の枯死を防ぎ収量・品質の低下を抑えるべく対策入念

紋枯病防除薬剤新規農薬説明会



紋枯病の防除試験結果と対応について説明する様子

JAでは11月25日、JA2階大会議室で紋枯病防除薬剤の新規農薬説明会を実施。近年の気温上昇で多発リスクが高まるなか、当日は生産者44名が出席した。

同説明会には、ホクレン札幌支所生産資材課の道仙係長から紋枯病防除剤（灌注剤・種子処理剤）と水稲初期除草剤の取り扱いとして、薬剤とコスト比較について説明。また、農薬メーカーのシンジエンタジヤパン株式会社並びにホクサン株式会社の担当者がそれぞれ出席し、自社の殺虫殺菌剤の効果や使用方法等についての説明がなされた。当JA生産資材課の宗像政美主任技師からは、紋枯病の防除試験結果と対応と題し報告があった。

紋枯病とは菌核病であり、糸状菌（カビ）の一種である菌類が寄生する病害。前年の被害株や畦畔などの罹病雑草に形成された菌核が越冬し、これが第一伝染源となる。菌核は代掻き時に水面に浮上し、稲の株元に漂着する。菌核とは菌類が寄生した植物の組織内や土壌中に菌糸が密集してできる塊。高温（25、28℃以上）や株間湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長し、葉鞘内に侵入し始める。菌核の付着は茎数が多い程付着しやすく、防風林や風当たりの弱い場所、用水があまり動かない場所等に多い。

仲間意識とルール共有で産地形成する姿勢から学ぶ

JA青年部移動村づくり視察研修



JA鳥取西部にて視察研修に参加した青年部員ら



JA鳥取西部選果場



広島県西日本農業研究センター



愛媛県農林水産研究所

JA青年部(第5支部)では11月17日から21日、近畿・中国・四国方面において部員15名と新條津村役場職員及び当JA職員が引率し、今年度の移動村づくり視察研修を実施した。

初日は移動日で、2日目から視察を開始。鳥取県大山町のMirairfarm(みらいファーム)にて、馬田雄大氏より水稲直播播について話しを伺った。直播面積20ha、労働力は馬田氏と父親の2名で経営されており、令和7年度は播種から防除まで全ての作業にドローンを活用し、スマート農業に力を入れていた。使用機はT50で、本村で使用されている機体より一回り大きく、以前のT25と比べて、作業効率が倍以上に向上したとのことだった。その結果、委託作業100haも問題なく対応出来たと話していた。また、園芸分野でもドローンによる防除実験を行い、国内で初めて倉吉スイカの防除に成功するなど、ドローン活用の幅広い可能性を感じた。続いて、JA鳥取西部でブロッコリーについて視察研修を実施。同JAでは年間10カ月の出荷体制を確立しており、平成27年度の作付面積は456haと西日本有数の産地となっている。大山ブロッコリーはGI取得をしており、その経緯は外部PRではなく、部会内の仲間意識向上を目的とした取り組みであったことが印象的だった。収穫ルールとして「22時〜翌6時の収穫」と「収穫2時間以内に冷蔵庫に搬入」を徹底し、高品質を守っていた。その後に見学した選果場は、JA全農とつとり、JA鳥取中央、JA鳥取西部の3者共同で建設されたもので、大型予冷庫(1機2,500コンテナ)を2機、大型製氷機(日量7t)を2機備え、氷自動充填ラインなど大規模機器が多数導入されていた。大山ブロッコリーの産地規模の大きさを実感する見学となった。

3日目は広島県の西日本農業研究センターで視察を始め、ドローンを活用した作業計画システムについて説明を受けた。近年ドローン利用が急増している一方、作業計画を支援するシステムが無かったことから、同センターでは圃場間移動や作業時間を提示するシステムを開発したとの話だった。バイジョンアップにより改善は進んでいるが、ドローン特化のため利用場面が限られるなど課題も示されている様子だった。その後、愛媛県農林水産研究所にて、水稲の高温障害と高温耐性品種「ひめの凜」について視察。出穂後20日間の日平均気温が26〜27℃以上で白未熟粒が増えることが明らかになっており、同県では高温に強い「にじのきらめき」と「ひめの凜」が栽培されている。「ひめの凜」は県を代表するブランド米で、高温に強く収量も多い一方、1ha以上の個人規模や日程・施肥・防除の厳格な基準を満たした認定者のみ種子を購入出来る仕組みとなっていた。高温対策としては、湿润気味の間断灌水や夜間・早朝のかけ流しが効果的で、白未熟粒の軽減に繋がるとの説明があった。

視察研修に参加した当JA営農部営農企画課の近藤貢弘担当の所感は「今回の移動村づくりを通して、他地域ではスマート農業の導入や産地としての体制づくりが着実に進んでいることを実感した。特にドローンの活用は、単なる作業効率化に留まらず、園芸分野まで広がる可能性を持っており、今後の農業経営において大きな武器になると感じた。また、大山ブロッコリーのように仲間意識やルールを共有しながら産地を形成していく姿勢は、地域農業の発展に非常に重要だと学んだ。今回得た知見を今後の営農や青年部活動に活かしていきたい」と話した。

栽培管理を見直し、次年度へ向けた計画を！

令和7年の融雪は平年より7日程度遅く、その後の耕起作業も断続的な降雨により、難航しました。

さらに、近年の高温傾向により作物の生育ステージや病虫害発生タイミングが変わってきていますので、今まで以上にほ場を観察する事が重要です。

令和8年は、気象の変動に対応し、生育に合わせた施肥や適期防除等を実施する計画を策定しましょう！！

本年の栽培に関する留意事項

1 水稲

課題点	① 高温登熟に向けた適正な水管理 ② 「紋枯病・疑似紋枯病」発生に対する対策 ③ 「アカヒゲホソミドリカスミカメ」防除の徹底
対策	① 登熟期間中に高温が予想される場合、白未熟粒や胴割粒の発生を抑制するため、かんがい水のかけ流しを行い、稲体の温度を下げる。 ② 昨年倒伏したほ場は、「紋枯病・疑似紋枯病」が発生した可能性があるため防除を検討する。 エバーゴルシード FS（種子粉衣）、ミネクトフォルスターSC（育苗箱灌注）、バリダシン液剤5（茎葉散布・出穂20日前）、モンカットフロアブル（茎葉散布・出穂20日前） ③ 高温になるほどカメムシの活動は盛んになり、被害も増加する。 基幹防除は、品種やほ場の生育状況をよく観察し、 <u>出穂期（全体の4～5割が出穂した日）</u> ＋出穂から7日後を適期に行う。また、必要に応じて追加防除も検討する。

2 秋まき小麦・大豆

課題点	① 病虫害対策 ② 透・排水性の改善 ③ 生育に合わせた追肥
対策	① 小麦の赤さび病は「高温・少雨」で経過すると発生しやすい。4月下旬頃の幼穂形成期より発生しているケースもある。対策として、ほ場を良く観察し、早めの防除を実施する。 大豆のマメシンクイガは、高温傾向により大豆の生育が進み、例年より1週間程度早く発生している。対策として、発生予察情報およびほ場で莢の伸長を良く観察し、適期防除を実施する。また、莢伸長期以降に若齢幼虫が「蟻」に擬態した <u>ホソヘリカメムシ</u> の発生が確認されている。ほ場を観察し防除を実施する。 ② 明・暗きよ、心土破砕、溝切り、カットドレーンなどを施工する。 ③ 秋まき小麦では、は種が降雨の影響で遅れた場合、生育期間を確保するため融雪を促進させる。また、起生期に茎数が800本未満/m ² と少ない場合は窒素追肥量を6kg/10a程度施用する。

雪下ろし作業は事故に備えて2人以上で行いましょう！

カスタマーハラスメント対策基本方針

制定 令和7年11月28日

1. はじめに

新篠津村農業協同組合（以下「当組合」といいます。）は、組合員・地域の皆さまを含めた利用者からのご意見・ご指摘に真摯に対応し、信頼や期待に応え、より高い満足を提供することを心がけています。

そのためには、全役職員が心身ともに健やかに、いきいきと活躍できる、安全・安心で働きやすい職場環境を確保することが、重要と考えています。

昨今、社会通念上相当な範囲を超えた要求や言動については、カスタマーハラスメントとして社会問題化しており、職場環境の悪化を招く、ゆゆしき問題となっています。

当組合は、日ごろの取引や対応において、組合員・利用者及び取引先の皆さまに誠実に対応することを第一に掲げておりますが、仮に社会通念の範囲を超えた要求や言動が組合員・利用者の皆さまからあった場合には、毅然とした態度で組織的に対応します。

2. カスタマーハラスメントの定義

当組合では、「組合員・利用者及び取引先の皆さまからのお申し出・言動のうち、役職員が従事する業務の性質その他の事情に照らして社会通念上許容される範囲を超えたもの（社会通念に照らし、当該言動の内容が契約内容からして相当性を欠くもの、又は、手段・態様が相当でないもの）により、役職員の就業環境が害されるもの」と定義いたします。

【対象となる行為の例（これらに限るものではありません）】

- ・ 当組合の提供する商品・サービスに瑕疵・過失のない商品交換の要求、金銭補償の要求、謝罪の要求
- ・ 当組合の提供する商品・サービスの内容とは関係のない要求
- ・ 身体的な攻撃（暴行、傷害）
- ・ 精神的な攻撃（脅迫、中傷、名誉棄損、侮辱、暴言）

- ・ 威圧的な言動
- ・ 土下座の要求
- ・ 継続的な（繰り返される）、執拗な（しつこい）言動
- ・ 拘束的な行動（不退去、居座り、監禁）
- ・ 差別的な言動
- ・ 性的な言動・セクシュアルハラスメント
- ・ 職員個人への攻撃、要求・プライバシーの侵害

3. カスタマーハラスメントへの対応

当組合は、以下の体制を構築しています。

- ・ カスタマーハラスメントへの対応方法や手順等を定めた「カスタマーハラスメント対応要領」の制定
- ・ 役職員への教育・研修の実施
- ・ 職員のための相談窓口、メンタルケア体制の整備等

そのうえで、カスタマーハラスメントであると判断した場合には、役職員一人ひとりを守るため、組織で毅然とした対応を行います。

なお、カスタマーハラスメントが継続する場合や、特に悪質と判断される場合等には、警察・弁護士と連携するなどし、厳正に対応いたします。

4. 組合員・利用者及び取引先の皆さまへのお願い

当組合は、今後も引き続き、農業と地域社会に根差した組織として、組合員・利用者及び取引先の皆さまと良好な関係を築いてまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上



JAバンクからの大切なお知らせ

ATMなどのサービスを 一時休止させていただきます。

いつもJAバンクをご利用いただきありがとうございます。
このたびJAバンクはお客様へのサービスや利便性の向上を目的としたシステム更改に伴い、
誠に勝手ながらATM・JAネットバンクなどのサービスを一時休止させていただきます。
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



休止日

すべてのサービスが休止

道内JAのATMとJAネットバンクサービスはご利用可能

2025年

10.18

土

全取引休止
21:00-
24:00

10.19

日

全取引休止
0:00-
8:00

10.25

土

一部取引休止
15:00-
24:00

10.26

日

一部取引休止
0:00-
12:00

11.8

土

一部取引休止
15:00-
24:00

11.9

日

一部取引休止
0:00-
12:00

2026年

1.11

日

全取引休止
終日

1.12

月・祝

全取引休止
終日

1.17

土

全取引休止
21:00-
24:00

1.18

日

全取引休止
0:00-
8:00



休止する
サービス



JAバンクのATM



他金融機関・
コンビニなど提携ATM



JAネットバンク
サービス



ジェイデビット



現金のお引き出しはお早めに。

お客様にはご不便をおかけし誠に申し訳ございませんが、
あらかじめ現金をお引き出しいただくなどのご準備を
お願い申し上げます。

※JA(店舗・ATM)、他金融機関・コンビニなどの提携ATMによっては、ご利用可能日・時間・サービスが異なる場合がございます。詳しくは、JA窓口・ホームページなどでご確認ください。※本件は2025年6月23日の情報を基に作成しており、変更が生じた場合は速やかにJAバンクホームページへ変更内容を掲載いたします。

詳しくはJA窓口へ

(JAお問い合わせ先)



[JAバンクのホームページ] <https://www.jabank.org>

ATMなどのサービスを 一時休止させていただきます。



©よりぞう

いつもJAバンクをご利用いただきありがとうございます。
このたびJAバンクはお客様へのサービスや利便性の向上を目的としたシステム更改に伴い、
誠に勝手ながらATM・JAネットバンクなどのサービスを一時休止させていただきます。
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

		休止日 / 時間			休止するサービス				
		土	日	月	JAバンクのATM		他金融機関・ コンビニなど 提携ATM	JAネット バンク サービス	J-Debit ジェイ デビット
		道内	道外						
2025年	10.18(土) 19(日) 21:00 → 8:00	×	×	×	×	×	×	×	×
	10.25(土) 26(日) 15:00 → 12:00	△利用可*	×	×	×	△利用可*	×	×	×
	11.8(土) 9(日) 15:00 → 12:00	△利用可*	×	×	×	△利用可*	×	×	×
2026年	1.11(日) 12(月祝) 0:00 → 24:00	×	×	×	×	×	×	×	×
	1.17(土) 18(日) 21:00 → 8:00	×	×	×	×	×	×	×	×



△利用可* 右記の点にご留意ください

- 振込については翌営業日扱いとなります。
- ペイジーの取引(公共料金などの収納サービス)についてはご利用いただけません。

現金のお引き出しはお早めに。 お客様にはご不便をおかけし誠に申し訳ございませんが、あらかじめ現金をお引き出しいただくなどのご準備をお願い申し上げます。

※JA(店舗・ATM)、他金融機関・コンビニなどの提携ATMによっては、ご利用可能日・時間・サービスが、異なる場合がございます。詳しくは、JA窓口・ホームページなどでご確認ください。※本件は2025年6月23日の情報を基に作成しており、変更が生じた場合は速やかにJAバンクホームページへ変更内容を掲載いたします。

JAバンクのホームページ
<https://www.jabank.org>



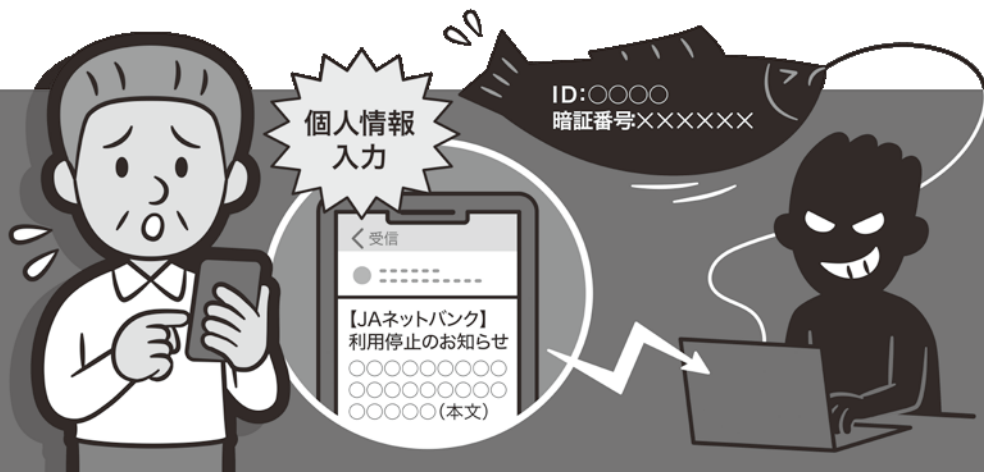
JAバンクを装った

フィッシングメールにご注意ください!

お客さま情報や利用目的の確認を求めるメールやSMSはすべて詐欺です!!

このようなメールやSMSを受信した場合には、
本文内に記載しているリンク先へのアクセス・個人情報の
入力は絶対に行わないでください。

JAバンクでは、「お客さま情報の確認」「取引目的の確認」「口座確認」等と称して
メールやSMSでJAネットバンクへのログインを誘導することは行っておりません。



✓ 実際に確認されたフィッシングメールの件名の例

- お客さま情報等の確認について
- お取引目的等確認のお願い
- お客さまの口座が凍結されました
- 利用停止のお知らせ

※上記のほか、「重要」「緊急」といった不安をおおる表現など、様々な件名が確認されていますのでご注意ください。



このような件名のメールやSMSはすべて詐欺です!
本文内に記載しているリンク先には絶対にアクセスしないでください。

⚠ だまされないためには

- 身に覚えのないメールや、本人確認を装った不審なメール、SMSは開封しない
- メールやSMSに記載されたリンク先には安易にアクセスしない
- メールやSMSのリンク先からは、IDやパスワード等の個人情報を入力しない

JAバンクからの正規のメールか判断に悩む場合、だまされてしまった場合には、すぐに口座をお持ちのJA店舗へ連絡し、必要に応じ最寄りの警察署へもご相談ください。

JAバンクでは被害拡大防止に向けて、警察と連携し、店舗やお電話等での「声掛けの徹底」に取り組んでいます。
何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

マネロン・金融犯罪対策への取組強化について

令和8年1月1日
代表理事組合長 長屋 光一

最近、様々な金融犯罪が発生し、その手法や手口も巧妙かつ高度になってきています。新聞等での報道を見て心配に感じておられる組合員・利用者の方々も多いのではないかと思います。また、国際的に金融機関が取り組まなければならない課題として、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策（以下「マネロン対策」）の重要性が益々高まっています。マネロン・金融犯罪対策に取り組むことは、信用事業を営む当組合の責務でもあります。

当組合では、金融機関としての信頼性を確保するため、そして、お客様の大切な財産を金融犯罪からお守りするために、マネロン・金融犯罪対策の取組みを重要な経営課題と位置づけて、一層力を入れて取り組むことといたします。

このたび、金融共済部長・管理部長をマネロン・金融犯罪対策リーダーに任命し、組合全体としての取組みの定着化・高度化に向けて、職員の先頭に立って取組みを進めてもらう予定です。私を含め常勤役員もマネロン・金融犯罪対策が組合内で徹底されるよう指揮のうえ、組合員・利用者の方に安心して当組合を利用いただけるよう取り組んでまいります。



定期配送だから
ラクラク!安心!

ホクレン 灯油 定期 配送

いつでも
ラクラク

灯油定期配送の
お申し込みは
コチラから

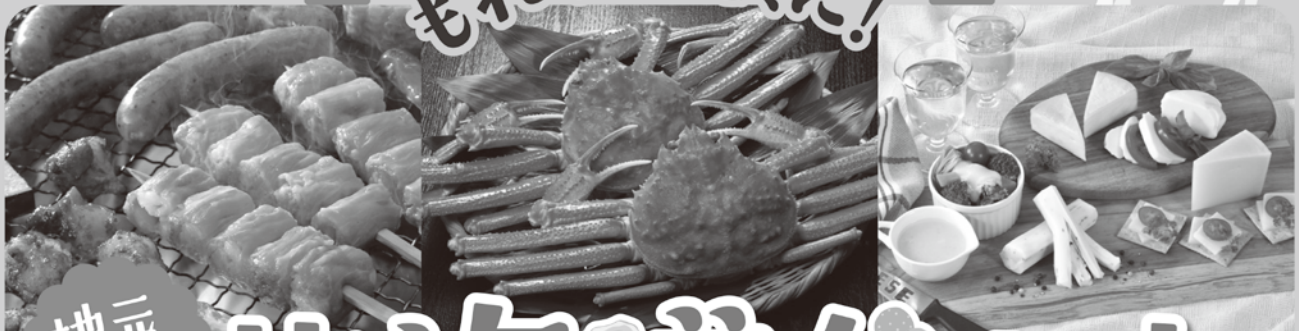


<https://www.hokuren-ss.jp/kerosene/order/>

WEBからの新規ご契約者さま



もれなく全員に!



地元
応援!
選べる

北海道グルメ プレゼント



その他20種類以上の多彩な
ラインナップからお好きな商品を
1種お選びいただけます!

景品一覧は
こちらから!



※写真はイメージです。
※景品は予告なく変更となる場合がございます。



※キャンペーン期間中に担当JAまたは会社と新規ご契約いただいた方が対象となります。既にJAまたは会社とご契約済のお客様は本キャンペーンの対象外です。WEB申込時点で契約は完了していませんのでご注意ください。
※家庭用灯油の定期配送契約のみ対象となります。 ※景品申込の案内は、灯油契約の翌月末までにメールにてお送りさせていただきます。 ※景品交換にはHOKUREN GREEN +PLUSへの会員登録が必要となります。
※景品の詳細やHOKUREN GREEN +PLUSに関するお問い合わせは、ホクレングリーンショップ (TEL: 011-206-7738) までお願いいたします。

ホクレン灯油定期配送の3つのメリット

メリット

1

**定期配送だから
灯油切れの心配なし!
不在でも配送します**

※天候・道路状況などの諸事情により配達日が変更になる場合もあります。
※マンション・アパート等の2階以上の配達につきましては、お断りさせていただきます。
※室内への給油はお断りさせていただきます。
※1リットル・90L以下のタンクへの配達は出来ません。

メリット

2

**盗難補償付き
5万円を上限として、
灯油盗難被害相当を補償いたします**

※現金での補償はいたしません。
※盗難に対する補償は、年間1回(当該年度4月1日~翌年度4月1日の1年間)に限らせていただきます。
※盗難該当以外のタンクへの給油はできません。
※灯油定期配送契約を締結されている方のみ対象です。
※一部対象外となる契約先もございますので、定期配送契約時にご確認ください。

メリット

3

**ホクレンiZAカードでの
お支払いで灯油がお得**

便ちと最大で
9円/L引き!
※上限300L/月

iZAカード新規入会
1円/L引き!
※上限300L/月

※入会初年度のみ年会費無料。以降1,375円(税込)の年会費がかかります。
年間120,000円(税込)以上のご利用で次年度年会費が無料となります。
※iZAカードのお申し込みは右上の二次元コードのリンク先にて案内があります。

皆様に日頃の感謝をこめて



SSキャンペーン



給油がお得!

毎週

大好評につき継続中!!

木・金 限定!



ポイント会員限定
ポイント会員新規受付中!

3円引き!



JA新しのつ
ホクレン新篠津給油所
石狩郡新篠津村第47線北12番地
☎0126(57)2810
営業時間 午前7時00分～午後7時00分



令和7年度 第11回 理事会 令和7年12月29日(月)

報告事項

- ① 組合員の加入について
- ② 内部監査室監査の実施結果について
- ③ 経営定期点検の実施結果について
- ④ 理事に対する資金の貸付実行について
- ⑤ 5,000万円超の信用の供与等に係る貸付実行について
- ⑥ 保管業務状況について
- ⑦ 令和7年度野菜・花卉の出荷状況について
- ⑧ 大豆調製施設の受入処理状況について

- ⑨ 令和7年度クミカンの整理状況について
- ⑩ 常勤役員の動静について

付議事項

- ① 組合員の出資持ち分譲渡について
- ② 令和7年度第3・四半期自治監査の実施結果について
- ③ 令和8年度内部監査計画の策定について
- ④ 令和8年度個人情報保護計画の策定について
- ⑤ 令和7年度クミカン整理に伴う不足額の貸付について
- ⑥ 規程の改正について

※上記の事項について報告、承認されました。

令和7年度 臨時理事会 令和7年12月18日(木)

報告事項

- ① 理事に対する資金の貸付実行について
- ② 5,000万円超の信用の供与等に係る貸付実行について
- ③ 「マネロン等の防止に係る対応状況」半期報告について

- ⑥ 令和6年産大豆の本精算について
- ⑦ 令和6年産小麦本精算、令和7年産小麦二次概算金について
- ⑧ 令和7年産甘藷品種混入の精算について
- ⑨ 負担金の支出について
- ⑩ 規程の制定及び改正について

付議事項

- ① 出資金の減口について
- ② 理事に対する資金の貸付について
- ③ 5,000万円超の信用の供与等の決定について
- ④ リース取引による固定資産の貸借について
- ⑤ 令和5年産うるち米本精算、令和5年産・6年産加工用・備蓄用・輸出用米に係る追加概算金について

協議事項

- ① 農協中期経営計画について
- ② 第11次農業振興計画の素案について
- ③ 令和8年度各課事業方針について

その他

※上記の事項について報告、協議、承認されました。

JA新しのつ 年末・年始の業務時間のお知らせ

業務	年末	年始	備考
一般業務	12月30日(火)まで (8:30~11:00)	1月6日(火)から (8:30~14:00)	/
金融窓口 (貯金・クミカン)	12月30日(火)まで (8:30~16:00)	1月5日(月)から (8:30~16:00)	
ATM	12月30日(火)まで (8:30~17:30)	1月5日(月)から (8:30~17:30)	
給油所業務	12月30日(火)まで (7:00~19:00)	1月4日(日)~5日(月) (9:00~17:00)	

★冬期の軽油配送体制 (JAOC配送センター)について

今期の冬期軽油配送体制について下記のとおりと致しますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い致します。

記

冬期(12月~3月)軽油配送日 毎週、火・木・土曜日

※尚、上記配送日以外になる場合は、給油所のローリーで対応しますので、ご理解をお願いします。

家の光図書 ~2026年1月の新刊~

※貸し出しを行っていますので、詳しくは、営農企画課までご連絡下さい。



最新版 図解知識ゼロからの現代農業入門 第3版

安藤光義 監修 A5判・232頁
本体:1700円(+税)

農業のあらゆる側面について予備知識がなくてもわかりやすく学べるように解説した旧版が、今話題の食料安全保障やコメに関する内容を盛り込み大改訂。マクロとミクロの視点から令和の農業を見通せる一冊!



小さな店をつくりたい好きな仕事で生きる道

井川直子 著 四六判・192頁
本体:1600円(+税)

独自の視点で、「食」にまつわるノンフィクションを書き続けてきた井川直子氏が、10坪程度の小さな店を営む8人取材。店を始めるまでの経緯や思い、店づくりや経営の工夫等を、書き下ろした充実の一冊。

令和8年度 農業後継者研修雇用 制度研修生 募集

JAの業務・研修を通して農業に必要な知識を習得します。

募集定員 2名

研修期間 8年4月から2カ年

応募資格 JA新しのつ正組合員の子弟、新卒者等で研修雇用期間終了後、自家の農業を継ぐ者。

応募受付 令和7年12月1日(月)～令和8年1月15日(木)

応募方法 履歴書、卒業証明書または見込書、成績証明書を応募期間内に管理経理課に提出。

※詳細・ご不明な点につきましては下記までお問い合わせ下さい。

応募・お問合せ先

JA新しのつ 管理部 中澤

令和8年度入学生第3回募集

JAへの就職希望者100%就職内定(令和7年度実績)

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年 ●寮完備(個室)/通学も可
- 受験資格:満27歳未満(令和7年4月1日現在)/大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:令和8年2月15日(日)
- 願書受付:令和8年1月6日(火)～1月23日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中



JAグループ職員養成校

一般財団法人 北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町43-1

TEL 0120-918-417

JAカレッジ 検索



新年の「五穀豊穡と無病息災」を願い、「どんど焼き」を下記のとおり行いますので、皆様のご参加お待ちしております。

とき 令和8年1月15日(木) 13:00～

ところ JA新しのつ 農業倉庫東側広場

2026年春用

ホクレンショップ新しのつ店からのお知らせ

春の種子注文販売実施!!

全ての商品を税込価格の「2割引」で販売

ホクレンショップ新しのつ店
電話番号0126-39-3131 FAX0126-58-3383
カタログは、店内サービスカウンターにご用意しております。

注文方法

カタログに入ってます「野菜種子注文書」に住所、氏名、電話番号、数量を記入しホクレンショップ新しのつ店まで持参、もしくはFAXにてお願いします。

販売期間

2月末日がメッキリ日となります。注文の忘れ、もれがありませんように!

商品のお渡し

お店に商品が届き次第、お客様に連絡を致しますので、大変お手数ですがご来店下さいますようお願い致します。

な、かまど文芸

新築の白壁照らす初日の出
新玉の丹田よりの祝詞かな

山眠る星も静寂民眠る

古曆残る一枚しみじみと

雨降りやそれぞれの音冬の暮れ

この地では鰯と標す寒さかな

除夜の鐘樺戸連峰轟きし

万物の色と音消し吹雪けり

お正月心に染みる母の味

吾の米寿初日拝みて仄々と

初御空無病息災祈りけり

初詣静寂の中で打つ手の音

俳句・川柳サロン

お正月皿数少なし具は多め

母屋からお供え持つて馬小屋へ

店番の置き物めくや着膨れて

南国へ発つ夢を見し吹雪の夜

東北の熊と押揃せし学友逝きぬ

長靴の猶ひきしめる寒の入り

石若ひとみ

田中美智子

小原博

浅田緑

水島キミ

木村良磨

佐藤千佳

長谷川美智子

菽生田敏昭

永森勇

波多野和歌

吉田修二

きみ

ひろし

はせみちこ

ひとみ

よしまろ

しゅうじ

12年後の夢・自分

新篠津小学校に在学中の平成26年生まれ6年生と5年生の若い年男、年女の皆さんです。この明るい未来を待ち受けている子どもたちに12年後の夢や自分を描いてもらいました。



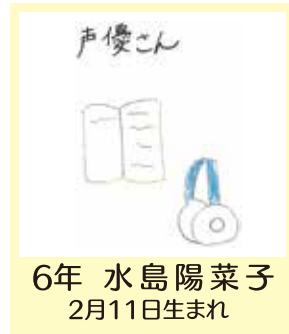
6年 金丸和冬
1月17日生まれ



6年 熊崎悠仁
1月21日生まれ



6年 亀田愛菜
2月6日生まれ



6年 水島陽菜子
2月11日生まれ



6年 中山 歩
2月18日生まれ



6年 田代湊聖
3月5日生まれ



5年 高田一請
4月2日生まれ



5年 板垣寛大
5月12日生まれ



5年 土居聖采
5月27日生まれ



5年 窪田羽那
7月22日生まれ



5年 高橋 蓮
7月24日生まれ



5年 市村星汰
9月5日生まれ



5年 天沼日向
9月24日生まれ



5年 小野寺航大
10月21日生まれ



5年 小野寺悠仁
10月21日生まれ



5年 白岩橙和
12月5日生まれ

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もJA新しのつ並びに広報誌「あぜみち」を宜しくお願い致します。

今年の干支は、十二支7番目の「午」年です。「午」は太陽が最も高く昇る時刻を表す文字であり、活力、情熱、行動力の象徴とされる。また、飛躍や挑戦に適した年で、馬が持つ速さや力強さと人間との関わりから、豊作や健康を意味する。更に今年は60年に一度巡ってくる「丙午」にあたり、十干3番目の「丙」も「午」も「陽の火」の性質を持つため、火の力が重なる非常に勢いのある年とされている。

午年にあやかって今年1年が皆様にとって良い1年となるように願いを込めてご祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。



5年 石塚優希菜
12月17日生まれ

お便りイラストを募集しています

食や農業、地域の話など、日ごろ感じていることを折り返しはがきでお便りください。採用された方には謝礼をお送りします。また、カラーイラストや写真もお待ちしております。

あて先と
お問い合わせ先

〒068-1193 石狩郡新篠津村第47線北13番地
JA新しのつ営農部営農企画課
TEL:0126-57-2311
E-mail:iwaimasami@shinshinotsu.ja-hokkaido.gr.jp

※JA金融店舗ATMとホクレンショップに応募箱があります。

発行/新篠津村農業協同組合 編集/営農部営農企画課
住所/〒068-1193 石狩郡新篠津村第47線北13番地
電話/0126(57)2311(代表) ホームページ/http://www.ja-shinshinotsu.or.jp/
印刷/弘文社印刷(株) 岩見沢市5条東11丁目
この『あぜみち』は環境にやさしい道産間伐材配合紙を使用しています。